



WEEKLY REPORT

JUNE.14.2023 第2067回

ルートインホテルズ ブリリアントアリーズを応援しよう



選手3名、スタッフ2名にご来会いただき、チーム紹介や目標などお話いただきました。今後の活躍を期待しています。
(左から平原さん、横田さん、村山さん)

横田 実穂様 (キャプテン/セッター)

<チーム紹介>

ルートイングループはスポーツを応援する企業として様々なスポーツ支援事業を行っています。スポンサーシップにとどまらず、地域スポーツ支援・社会貢献活動をしていく中で、一人の従業員が仕事の傍ら上田で子ども達のバレーボール指導に長く携わるなかで、将来全日本に召集される選手の育成をという夢をいだいていたことをきっかけに、バレーボールの実業団チームとして2017年に私たちルートインホテルズ ブリリアントアリーズは上田市を拠点として活動を開始しました。2019-2020に国内最高峰のバレーボールリーグ、V.LEAGUEに参入し、現在はV2女子リーグで戦っています。

村山 美佳様 (副キャプテン/アウトサイドヒッター)



<今年の目標、抱負>

今シーズンは、昨シーズン叶えられなかったV2優勝を奪還するために副キャプテンとしてチームのことはもちろんですが、個人と

しても、信頼してトスを上げてもらえるような存在になれる様に日々の練習を行っていきます。そして長野出身の選手として長野県にスポーツを広げていくためにもいろいろな活動を行って沢山のの人に「感動と夢そして元気」を与えられる様に楽しんでバレーボールをしていきたいです。

平原 果歩様 (※上田市出身/アウトサイドヒッター)

現在スタッフと選手16名で活動しており、長野県出身選手は私たち3人を含めて5名います！昨シーズンから移籍選手を受け入れたり、外国籍の台湾選手も加入しました。私たち選手全員が上田市にある寮で共同生活をしています。ブリリアントアリーズは、ルートインで運営しているチームではありますが、長野県やHOME上田市のみなさん、ファンのみなさんの応援や協力があって成り立っているチームだと思っています。より応援していただけるように、勝つことだけではなく、バレーボールやスポーツを通して、上田市を盛り上げられるように地域活動にも力を入れていきたいと思っています。

個人的にはなりますが、上田市で生まれ育ったので上田市で活動できることに感謝してより上田市の魅力を伝えられるように今シーズンも活動していきます。



例 会 日 誌

6月14日(水) 曇り

2022 ~ 2023 No.38

- 司 会 白井正博君 ●斉 唱 「奉仕の理想」
- ゲ ス ト ルートインホテルズ ブリリアントアリーズ
- 横田 実穂様 (キャプテン・セッター)
- 村山 美佳様 (副キャプテン・アウトサイドヒッター)
- 平原 果歩様 (アウトサイドヒッター)
- 勝野 多恵様 (チーフマネージャー)
- 高堰 祥子様 (事務局)

- ラッキー賞 玉井権太郎君 (季節のアレンジ花)
- 友 愛 賞 宮本茂幸君 (山本君よりオードリーのクッキー詰合せ)



■会長挨拶

母袋創一 会長



屋の例会の私の挨拶もあと2回となりました。今日は本年度最後のゲストスピーカーにふさわしいブリリアントアリーズの皆様をお迎えしました。ご紹介は工藤プログラム委員長にお任せして、私は「公共交通パート2」を仕上げたいと思います。たまたま昨日の日経社説に「ローカル交通の再生急げ」と掲載されていました。

さて、前回の「パート1」では「地方鉄道の存続廃止に国が主導し関与する法律が成立したところだが、条件適合しなければ当面これまで同様の経営・運営となろう」とお話ししました。当クラブには公共交通を担う上田電鉄・上田バス両社長がおられ、誠に僭越とは承知のうえ、私の思いを勝手に話をさせていただきます。

まず、サステナブルな交通の経営形態を考えると、
①これまで通り民間100%の事業者が運営。補助金を受けるも青天井ではないことは課題。

②第三セクター方式での経営。(しなの鉄道、新潟のえちごときめき鉄道等、公と民のセクター出資)

③「上下分離方式」(近年増えてきたが、県下には存在しない)の経営。これは「上」つまりインフラなどハードの部分(鉄道レール、駅舎等)は行政が所有し、「下」つまり運行などソフトの面は民間事業者が担うもので、「公設民営」スタイルである。

H19年、別所線の赤い鉄橋が崩落した際、市が鉄橋を所有するという補助金前提の条件で復旧した。したがって市は運行上の安全にも責任を負うことになった。

以上、三つの方式が考えられますが、滋賀県では財源手当として「交通税」を県民負担としてお願いできるか検討中と承知しています。

ところで、別所線の維持上、欠かせない存在に東急電鉄があります。東急グループ創始者の五島慶太翁が青木村出身で、近年、村との関係を強化していますが、そのグループの中核が東急電鉄と理解しています。

同社からの支援は、

①技術・工事面での支援。(保線維持は人命に関わるので重要。先日、しなの鉄道の脱線事故発生。)

②車両の提供。耐用年数未だ長く残っているものでも融通。

③上田市が関与するポスターの東急各駅への掲示(無償)。

「真田丸」始め市が多額の補助金支援を始めた時から。

次に、バスの支援について、上田バス・千曲バスを中心に話ししたいと思います。

昨年9月「広報うえだ」で「公共交通を生かしたまちづくりに向けて」との特集が組まれた。運行補助金として多額の金額が交付されていますが、県下で唯一の運賃制度「運賃低減バス」について紹介されていた。これは私の在任中に始めたのだが、導入の際、かなり思案し決

断した。現在の利用者実績は当時の計画予想には至っておらず残念だが、現在青木村も参加し、一市一村による運営となっている。

近年、バスは小型化が進んでいるが、将来、電気自動車の自動運転バスが可愛いコンパクトな形でお目見えすることも予想され、市内で日置電機の提案で関係社連携での実証実験が行われると報道された。

最後に、公共交通利用促進を図るために、最も肝要なことは利用者の増加です。そこで市として「乗って残そう公共交通」と訴えてきた。また「鉄道は公共財で財産」「鉄道は社会的装置」そして「公共交通は社会的便益を生み出す」など、学ばせて頂いたフレーズである。

結論的に言うと、電車・バスなどは、単に営業成績だけで考えるのではなく、全体のまちづくり・地球温暖化(CO2削減)・高齢化などの要素も含め、総合的判断の中で、「存続・維持」を考えて欲しいと願っている。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	50	46	18	—	60.87%
前々回	50	49	3	1	95.92%

ニコニコBOX (敬称略)

飯島(裕)、石井、上原、小田中、北村、工藤、後藤、小林塩之入、関(邦)、高野、滝澤、田守、手塚(た)、松山宮本、母袋(創)、柳澤、山本、渡辺

※母袋創一君/今年度最後のゲストスピーカー、ブリリアントアリーズの皆さん、ようこそ!

※工藤 恒君/ブリリアントアリーズの皆さんようこそ!

※塩之入永子^{さん}/ルートインのバレーボール部の皆様、ようこそ。活躍、心から応援してます。

※山寺高太郎君/アリーズの皆様、頑張ってください。

※松山賢太郎君/アリーズ頑張ってください!

※小田中謙君/サインはV...古いですね!

※山本 修君/しなの鉄道の脱線、同業者として胸が痛みます。早期復旧を祈るばかりです。

※関 邦幸君/理事会の最後の司会、終了しました。理事の皆様1年間大変ご苦勞様でした。

※石井公彦君/ラッキー賞、ありがとうございます。

※渡辺敏成君/妻の誕生日に花が届きました。私があげた花より立派なのはやめてもらいたいです。

本日の金額/25,000円 累計/1,481,000円

掲 示 板

上田、丸子、上田西RCの例会場が、次年度より以下に変更となりました。

上 田RC：上田高砂殿

丸 子RC：料亭おだまき (7月~9月)

信州国際音楽村研修棟 (10月~6月)

上田西RC：上田東急REIホテル